

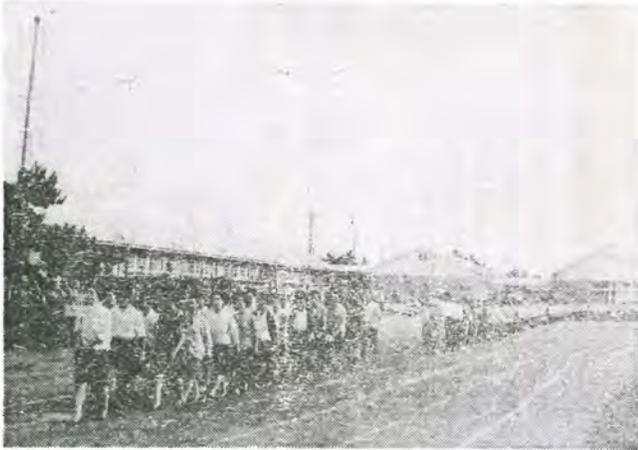
蓬

門

蓬田村公民館報
【蓬 門】第61号
発行所
青森県東津軽郡
蓬田村公民館
印刷所
蟹田印刷所

第九回 村民体育大会

蓬田音頭作曲振付 踊り披露をかねて



【写真……選手入場行進】

× × × ×

村民待望の第九回村民体育大会は、先の実行委員会において八月十八日行なわれることに決定になつておつたが、丁度その期日を中心に水稲の一勢防除が始つたためやむなく延期せざるを得なく、二十三日決定したが二十日夜来から二十一日にかけての豪雨に見舞われ、蓬田地区もかつてみざる大水害をこうむり二十三日になると蓬中グランドも水浸しの状況で無期延期となつた。

その後各関係団体の行事が折り重り三転、四転してやつと九月十一目に行なられた。

当日は幸い初秋に嬉しい好天に恵れ堂々の入場式から華やかに開幕され、満場をわかす好、珍プレーが続出しグランドを埋めた観衆の爆笑が初秋の空にこだました。

ことに明治百年記念に嬉しい、蓬田連婦の有志による大仮装行列蓬田音頭のメロデーに乗つた三百有余の婦人の揃いの蓬田ゆかたに盛装した手踊は余りの好演技に観衆の息を止めた位であつた。

終始なごやかに、一つのトラブルも一つの事故もなく三時過ぎ終り明日への希望を抱き、来年を約して散会した。

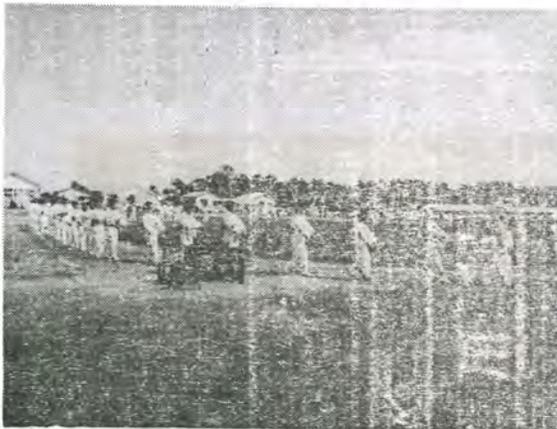
成績順位は次の通りであつた。

- 第一位 長科部落
- 第二位 阿弥陀川部落
- 第三位 瀬辺地部落



【写真……仮装行列】

× × × ×



【写真……婦人会員による蓬田音頭の踊り】

× × × ×

四十三年度 慰 靈 祭

玉松台 上で

平和の灯（献燈） 除幕式



【写真……明治百年を記念し建立された平和の灯】

去る八月二十日、村民いこいの場、玉松台上において慰霊祭をおごそかに取り行なわれ、遺族及び参列村民が、心新たに往時を偲びみたまを慰めた。
更に蓬田村遺族会（会長 八戸三郎）の手によつて企画された明治百年を記念し建立された平和の灯（献燈）も完工しその除幕式も同時に行なわれ、参列遺族は勿論村民も一入感と深いものにした。

この企ては遺族会が中心となり、明治百年記念事業の一つとして、祖国の礎となつた英霊を慰めんと計画され、遺族及び特志者より寄金を仰ぎ総工費三十二万円を以て建立されたもので深い眠りの英霊に永久に消えざる灯を与え、更にこれからの村民に平和の灯として胸に刻んで、平和への願いを村民一人一人に強く、反響さすことになつた。

式が終つた後蓬田婦人会の会員による、蓬田音頭の踊りなど披露され盛会裡に終ることが出来た。

× × × × × ×

入魂除幕式 あいさつ

遺族会長 八戸三郎

たゞいま佐藤導師により入魂除幕式がとゞく終り永遠に消えることのない平和の灯をあかすことになりました。
さぞかし地下に眠る英霊も喜んでおること、と思います。

これも一重に遺族の方の真剣な平和への祈りと英霊を心から慰める願いに外ならないものと、信じております。

更にこの献燈建立の主旨に全面的賛意を表し絶大なる御援助下さいました村当局ならび村有志の方々の御温情の賜であつて遺族を代表

産経だより

農家の皆さんへ

毎日の農作業ほんとうにご苦労様です。
本年も産米の売渡し時期がやつて来ました。

そこで本年の産米売渡し価格は次のように決定しました。

又米の売渡しにあつたつて特につきのことに注意しましょう。

一、刈取りしたあと充分乾燥し上位等級で高く売渡ししましょう。

して心から感謝申し上げる次第であります。

昭和四十三年八月二日



【写真……平和の灯の入魂除幕式】

この微力な會長を中心に目的達成のため一致団結御協力下さつたことに対し一入感慨深いものがあります。
遺族会員も生涯の思い出となること、思います。

これからも英霊の心を心として英霊を慰め一生老骨を捧げる覚悟を

二、脱穀調整を夜間に行なうと土砂その他が混ざりやすいので出来るだけ昼間に行なひましょう
うるち玄米（水稲）六〇kg

包	一 等	八、三三八円
装	二 等	八、二一八円
ハ	三 等	八、〇九八円
	四 等	七、九七八円
	五 等	七、六七八円

複式俵（新）一三三円
かます（新）一一五円
麻袋（A）一五二円（B）二〇〇円
（C）八五円
紙袋（新）三三円

この価格は暫定加算金として六〇kg当り一〇〇円が含まれております
出荷調整奨励金（遅出し）
十二月十六日～一月十五日 五四円
一月十六日～二月十五日 一〇八円
二月十六日～三月十五日 一六二円
三月十六日～四月十五日 二一六円
四月十六日～五月十五日 二七〇円
もち米加算金水稲玄米六〇kg
五八〇円（三等基準四三年十二月五日まで売渡しのもの）

豊水放談 21

みねできかねで

もらた嫁

「見ネで聞かねでもらた嫁
朝に朝寝し昼寝する
夜の夜中に寝言して
起せば起すで寝尻をふる。」
(津軽民謡詩集)

▲ 俗ほつくあまり品のよいものではないらしいがそれだけ味合えるものがある。

封建時代民衆の風刺と駄洒落によるものらしい。
人に人くせ、馬に馬くせ
千両の馬にもきずがある
なくて七くせと云れておるが、くせの代表的なようなものだ。

姑との折合点についてなにもなくなるとなく他愛ない愛嬌が感じられる。

現代の悪女とは意味が違ふらしい
それでも最後にこう結んでおる。
……………「へどうしたことか
一姫二太郎年ゴもつおはらソール
ヨーイ。」

▲ 封建当時は親同志の意志で決められ、好きだはれたで結ばれる
中々面白く夫婦円満である。

ことは許るされぬ社会形態で、特に武士階級は一つの掟に従い家と家で結ばれおる。
従つて政略結婚が生れ、戦国時代は親娘同志の、戦が繰り返されてきた。

百姓町人においても大家になればなる程好き勝手は許るされべきもないことは当然であつた。江戸時代の代表的なものとして、お夏清十郎、お染久松、八百屋お七など数々の悲恋物語が残つておる。

恋愛は人間社会として、古代から平安、江戸時代も今も変りがないたゞ許せぬ時代とその形態行動が違つただけである。

嫁に来て祝言の晩始めて夫の顔をみた、嫁の顔をみたと云うことは珍らしくない程きいた。今の世代からみたら不思議なことだ。
▲ 「合縁奇縁」多くのさまじくな意味が含まれておる。
「袖触れ合うも多少の縁」

「つますく石も縁のはし」などのことわざがある。

見ず知らずの人と道ですれちがうのも、前世からの因縁だと云う意である。
因縁、因果、因業等仏教から出た言葉だと云れておる。
近松の「生玉心中」に、
「私もその下にしばしがほど雨やどり、こなさんもその通り、その雨やどりを一樹の蔭、他生の縁でござんす」とある。(池田弥三郎故事物語) 前世からの因縁を現しておることばである。

▲ 「縁は異なるもの味なもの」
「見ネで聞かねでもらた嫁」だつて前世からの縁で最も悲しい夫婦として結びついていたと思れる。
一姫二太郎と年ゴの二人の子供を生んでおるところから第三者など

明治百年記念祝典

実行要綱決る

十月十四日明治百年記念祝典実行要綱を審議するため実行委員会を開き審議した結果、別記の通り決定した。

なお具体的実施について各部内の部長会を開き、実施段階の細部にわたつて審議することにする。

明治百年記念式典 実行要綱

一、実施期日 十一月二十三日
午前十時(予定)

なにもデ… るまい。
すずめ族であるまいし、
あいて詮索するならイタコか神様でなくては解るまい。
結ぼうとしても、結ばせようとしても結ばれない者が世の中に沢山ある。

く求む

臨時スクールバス車掌

蓬田村教育委員会では冬期間運行のスクールバスの車掌を募集しています。
期間 十一月十五日〜三月末日

勤務時間 七時〜一六時
賃金 月額(二、〇〇〇円)
希望の方は十一月四日までに教育委員会事務局へおいで下さい。

「縁なき衆生はどしがたし」
積尊でさい心ない者には説度するにはむづかしいと嘆いたようだ。
なにごとまづいときは縁がないものとあきらめるのも処世術の一つかも知れない。
(一九八六、八、七)

二、場 所

蓬田中学校講堂

三、式典の内容

1 表彰(明治生れの生死共)

ア 議会関係

イ 村関係

ウ 教育関係

エ 村長、助役、収入役

オ 学校長、学務員(学校長は村内出身) 在村校長十年以上

上

エ 産業関係

森林組合連合会長、農会、産業組合

オ 社会事業関係

方面委員

カ 消防関係

消防団長(消防組 警防団)

キ 部落関係

戦前部落区長(八年以上)

ク 2 記念行事

ア 明治の思い出ばなし

イ 村内二名〜三名(若し村内にない場合講師を依頼する)

ウ 郷土の民謡

エ 村内二名〜三名

オ 蓬田音頭 連合婦人会

ウ (各部落の婦人会に踊つていただく)

蓬田農協新築倉庫落成式 並び農協20周年記念式典

総工費四千六百万円を以て、小山田建設会社の請負によつて七月着工し、その間役員及び関係者の献身的協力により、工事も順調に進み、この程完工し、内部装備として新式ベルトコンベヤーも完備旧来の入庫より大巾な労力の軽減を計ることになった。

十月十三日六万俵収容出来る新倉庫において、組合員、会員、村内外の多数の有力者を集め盛大に落成修祓式、農協二十周年記念式を併せて挙行された。

それらの式典が終り大倉庫の一角に仮設された舞台において民謡祭が披露され出来秋の忙しい作業を一日休み心ゆくまで語らい、楽しみ二ツの式典の幕を閉じた。

当日式典を記念して、元現役員の組合発展に寄与した功勞をねぎらい感謝状が贈られた。

記

感謝状を贈らした人々

武井 慶太郎 張問 亀雄
故坂本 年男 川崎 吉藏

蓬田農協青年部誕生

かねてから企画推進されていた蓬田農協青年部が発起人会も終り十月一日設立総会を開き目度く発足した。

そのねらいは、組合員としての生産技術向上とこれからの農業経営に若い力を結集し、農家個々の生活安定こそ農協発展につながる唯一の途であり、更に農協婦人部と常に横の連絡をとり組合意識を向上進歩させてゆくことにある。

組合員一人一人が、この若い力を育てゆくことは、勿論であると共にその期待感も、大きいものと思われる。

事業計画書

- 十一月 設立総会
- 十一月 学習会（講師農協参事）
- 十二月 学習会（講師農協参事）
- 一月 学習会（講師農協参事）
- 一月 農協婦人部との交換会
- 一月 トランプ大会
- 一月 肥料の注文書について
- 一月 学習会（講師と協参事）

- 八戸 三郎 故久慈 勇丈
- 清水 専造 故越田 由太郎
- 松本 倉五郎 津島 源之助
- 森 光秀 坂本 米三郎
- 故高田 米松 稲葉 幸治郎
- 故工藤 永助 故菊地 慶作
- 故坂本 長五郎 八戸 倉次郎
- 故坂本 要次郎 太田 兼太郎
- 故工藤 藤 弘 坂本 貞教
- 飯田 岩吉 故稲葉 竹三郎
- 久慈 倉雄 坂本 増吉
- 田申 秋実 坂本 宇一郎
- 坂本 文一 武井 巳之吉
- 小畑 清実 久慈 孝三郎
- 田中 一雄 倉谷 松恵
- 松本 武美 加藤 喜代作
- 横山 久太郎 佐井 武道
- 津島 鉄男 大宮 金助
- 八幡 多治郎 八戸 一郎
- 小野 清七

- 二、水稻栽培こよみ作成について
- 三、新農薬の使用方法及び取扱（講師普及所、経済連）
- 三 月 学習会（講師農協参事）
- 二、展示圃の肥料及び指定について
- 三、農協親交会との交換会
- 四 月 学習会（スライド使用）
- 二、畑苗代土壌調査
- 五 月 部員畑苗代現地検討会
- 六 月 学習会（要求米価について 講師組合長）
- 七 月 要求米価県大会への参加
- 二、米価大会の反省会

収支予算書（四十三年度）

- 八 月 展示圃現地検討会
- 一、他団体との交換会
- 二、水稻、そ菜の研究視察
- 三、他地域との交換会
- 九 月 展示圃現地検討会
- 十 月 坪刈実施
- 十一月 坪刈表彰式
- 十二月

役員	部長	坂下
副部長	坂本	山本
役員	田本	山本
重	田本	山本
幸	田本	山本
一	田本	山本
雄	田本	山本
弘	田本	山本
廣	田本	山本
雄	田本	山本
農	田本	山本
彦	田本	山本
幸	田本	山本
一	田本	山本
道	田本	山本

項目	金額	摘要
部費	20,000円	1,000円 × 20人
助成金	60,000円	農協より
計	80,000円	

項目	金額	摘要
学習会	7,000円	1,000円 × 7回
交換会	4,000円	1,000円 × 4回
講習会	3,000円	1,000円 × 3回
役員会	2,000円	500円 × 4回
レクリエーション	6,000円	3,000円 × 2回
展示圃	20,000円	5ヶ所 × 4,000円
検討会	2,000円	1,000円 × 2回
視察	10,000円	
研修費	10,000円	
旅費	8,000円	
予備費	8,000円	
合計	80,000円	

収入

支出

蓬田、大館城跡 石碑建立さる

我が蓬田村の歴史を辿るならば大館城が、先づ頭に浮んで来る。築城の年代は明かでないが、戦国時代より古く遠く南北朝時代の築城であると伝へられ、築城学の専門学者たちも地形や内外濠り等からその時代のものであると実証されておる。

城などは武士階級のもので百姓町人にとつてなんの関係もないものであると云う者もあるが誤つてい

る論であると思われ。当時の社会でも快して武士は武士百姓は百姓だけの切りはなした社会状況ではなく

一連の大きなつながりをもつてきている。

城下町の栄えた所以もその一つであるし、一例であるが、門前町として栄えた長野市あたりは有名な善光寺がありそれに連なる社会組織からである。

現在でも中央政権都市や県庁所在地は政治、文化、経済等他の町を圧しておる

それらを考えてみると、大館城が築城されてから文化、産業経済が発展してきたこと明かであつてその影響力によつて今日の我が村があることは決して云い過ぎではなからう。

村の長老たる清水専造氏は故人となられた坂本種一氏、佐藤琢法氏らと語り、我が村に残された、遺跡の探究に心を砕き、大館城址を後世永く伝へ、文化産業経済の源を掘起し、時代／＼の人々に歴史的發展経過を教へべく決意をされたのであるが、坂本、佐藤両氏

は意図、中バにして故人となられず、さりとてその決意は捨てずこの数年、心の中でその計画推進を

続けておつたが機が熟し丁度今年は明治百年と、記念すべき年を迎え、この機を逸してはと心に誓い

部有志に計りその賛同を得、更に部落民へ広く計り協賛会(会長清水専造)を組織するに至つた。

部所領となつてから奥瀬窪助氏が居城し、文明の頃相馬氏蓬田

越前則政是に替り、数代を経て天正十三年三月

二十七日津軽為信公に領せられる迄、凡そ百有余年この辺一帯を支配したわけであり

ます。後、津軽氏之を廃城としたので荒廃し、濠や輪郭によつて僅かに昔を偲ぶばかりになりましたが、其の造の大きいことから相当のものであつたことが判ります。

山を負い海に臨み清流あり美田万畝条件且える蓬田の地は早くから先住民が居たことや又、今光上人行脚の地として七、八百年の昔から文化の香のただつた所であります。

蓬田城は何時の頃誰に依つて築かれたかは不明でありますが南北朝時代安東氏一族潮瀧四部道員の居城であつたとも云われて居りま

大館城跡石碑文

吾が村は立派な文化産業を持得る地理的条件を備えていることを歴史が証明し、祖先が訓えている事實を覚らなければなりません。同時に吾々は今、城こそなければ

でも鎮守八幡宮を中心にして研究

すが、大井田舎館等と共に明応年間築かれたという一説もあり

ます。徳治二年頃相馬佐伝四郎則一安東氏の一雄として居り、のち北

島氏の配下として行動し更に南部所領となつて

から奥瀬窪助氏が居城し、文明の頃相馬氏蓬田

越前則政是に替り、数代を経て天正十三年三月

二十七日津軽為信公に領せられる迄、凡そ百有余年この辺一帯を支配したわけであり

ます。後、津軽氏之を廃城としたので荒廃し、濠や輪郭によつて僅かに昔を偲ぶばかりになりましたが、其の造の大きいことから相当のものであつたことが判ります。

されば昔の武將が籠城の場所として何故大館を択んだかと云えば古来築城の条件である戦術的に政治的に將亦文化的産業振興の適地であるからであります。

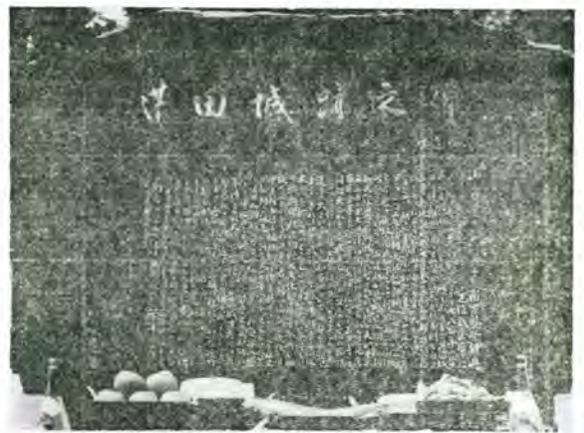
吾が村は立派な文化産業を持得る地理的条件を備えていることを歴史が証明し、祖先が訓えている事實を覚らなければなりません。同時に吾々は今、城こそなければ

でも鎮守八幡宮を中心にして研究

す

を積み努力を重ね、比の条件を最大級に発揚して、昔の城下町だつた繁昌振りに再び返すべき責任を感じ

るものであります。



【写真……大館城跡石碑文】

を積み努力を重ね、比の条件を最大級に発揚して、昔の城下町だつた繁昌振りに再び返すべき責任を感じ

るものであります。吾々部落民の意欲は社殿の新築境内の拡張、神域には桜花ど、日と共に盛り上げて参りました。

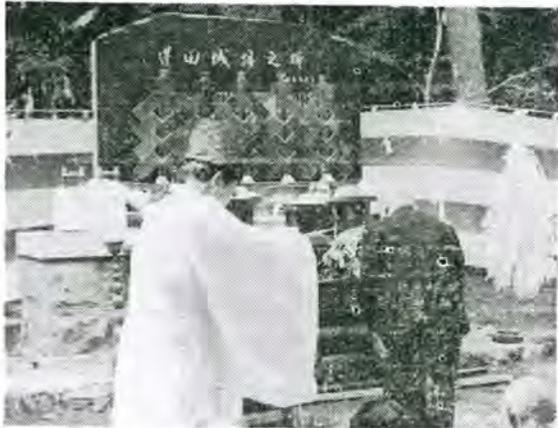
緑一色に蔽われた、梵珠山脈を背景として、数百年の齢を重ねた老松古杉は間に絢爛として咲き誇る桜花の如く、比の地の発展が開き勾うよう、昔を偲び今を顧りみ

子々孫々の訓えとして刻むものであります。

維時正に明治百年祭の記念すべき年に当る。

昭和四十三年八月吉日

明治百年記念
大館城跡碑建設協賛会



【写真……蓬田大館城跡に建立された石碑】

大館城跡の碑 除幕式々 辞

この度我が蓬田村として由緒ある大館城跡に城跡の碑を建立し、部落民、村内外多数の来ひんの参列を得てこゝに目出度く田川神官によつて除幕の儀も終り感無量なものがあります。

碑の建立こそ蓬田の念願でもあり私たち地元としての念願でもあつたわけです。

この大きな意義ある目的達成ができたことは、部落民一同の心からの協賛と、村内外有志の理解ある協力の賜と深く敬意を表する次第であります。

城跡のことについては城王の子孫にあたる相馬氏より後ほど承ることにして、現在までの経路について申し上げます。

今から十有余年前正法院において故坂本種一氏、佐藤琢法師と語り、玉松台は今や県内外に広く伝えられ、蓬田の玉松、玉松の蓬田と認識を深められております。

加えて我が村として由緒深き大館城跡を掘り起し我が村の歴史をひも説き、時代／＼へ伝え、文化産業教育に役立たすべきであると、碑の建立を計画し調査に乗り出し、図書館や郷土史研究家を歴訪中、坂本、佐藤両氏は故人となられ、一時は頼みの綱が切れた思いでした。

両氏が故人になつたとは云い計画を流すわけには参らず当時の小野

蓬田村学校給食センター落成式

児童生徒の体質改善と偏食是正食生活を正しい理解とと望ましい習慣を養う。この目的によつて建設中の給食センターが完成し十月一日を期して全校一、〇八一名に同一食を届けることになった。

その修抜、落成式は十月十二日女子建設班教室において開き盛大に

行なわれた。

その費用は

一、設計事務費	一二万円
二、建物	四一〇万円
三、設備費	五一〇万円
四、給水	五〇万円
五、その他	三七万円
計	一、一九万円

県立図書館長の協力を得て、調査資料もまとまり今日の運びとなつた次第です。

思えば、長い年月ではあつたが、部落民の協力によつて協賛会が結成され、目の辺り跡碑を仰ぐとき人の和の偉大さを感じ入る次第であります。

蓬小校歌に「蓬田城の城跡に今も桜が咲いている」と歌はれ南北朝より連るこの城跡こそ、「古きを尋ね新らしきを知れ」のことばの如く、武士、百姓町人も今日の生活の基礎をつくり育て、きた先人を偲び香り高く後世に伝へ下さればこの上ない幸と存じます。

昭和四十三年九月二十五日
大館城跡之碑建立協賛会長
清水 専造

第十五回東北ブロック

公民館大会に参加して

九月二十日～二十一日第十五回東北ブロック大会が山形県天童市で開かれ、私が参加する機会を得たのでその一部を報告致します。

会場は山形県青年の家で開かれたがその会場は実にすばらしく青森県の青年の家とはひかく対照にならない。

総工費一億五千万円、設備内容をみても山形県の青年たちは幸だと思つた。私が所属した分科会は農村事業部会で一四〇名位の大分科会となつた。

問題の出し方は二つの示例発表が

なされそれを中心討議された。青森県倉石村社教主事、勝山実が「住民自治活動と公民館活動」について発表された。

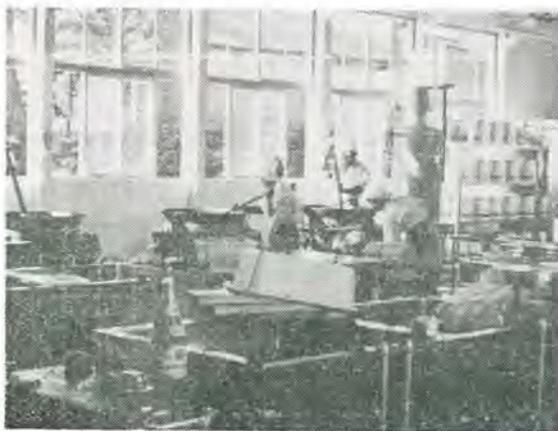
さまざまな討議がなされたが、結論として公民館の建設と内部設備の充実を計り地域住民と会合の機会を多くもつことにつきた。

第二日は各分科会の集約発表に対する全体討議、記念講演があつて大会を終つたが、詳しいことはスペースの都合で次号にゆづり大会参加報告に致します。

(坂本館長)



【写真……完成した学校給食センター】



【写真……給食センター内部】